

「生きる」ということ

～無言館を創った男 窪島誠一郎～

○放送日時 2023年(令和5年)1月27日(金) 19:00～19:57 フォーカス信州

○2/5(日) 25:25 (2月6日(月)未明) から再放送

○民間放送のネットサイト TVer で放送日から2週間(～2月9日) 無料配信

今、上田市にある無言館館主・窪島誠一郎さんが注目されている。日本テレビ系列の24時間テレビでは、昨秋、窪島さんを主人公モデルとしたドラマ『無言館』(主演＝浅野忠信)が制作・放送された。昨年11月には、窪島さんの父で、晩年東御市(北御牧村)に居を移し、終の棲家とした作家の故水上勉氏を主人公とした映画『土を喰らう十二ヵ月』(主演＝沢田研二)が全国公開された。戦争の危機が身近に感じられるようになった時代の中で、戦没画学生の作品を集めた美術館を運営し、齢80歳を超えた窪島さんの思いに、耳を傾けてみようという機運が高まっているといえるだろう。

東京で生まれ育った窪島誠一郎さんが長野県上田市に「信濃デッサン館」を開館したのは1979年。その18年後の1997年には、戦没画学生慰霊の美術館「無言館」を開設した。窪島さんは両美術館の館主を務めるとともに、数多くの著書や演劇、文化活動を通して、今日の社会を深く洞察してきた。

2004年には実父の小説家・水上 勉氏を看取った(享年85)。弱者への眼差し、反戦、反核の思いは、父子に共有されている。

毎年、桜の咲く4月に「無言館」で「成人式」が行われる。20回目の昨年は、内田也哉子さん(樹木希林の娘)をゲストに迎え、これからの時代を担う若い人たちにメッセージを贈った。

一昨年9月、窪島さんは「第32回平和のための信州・戦争展 in 長野」でオンライン講演し、信濃デッサン館の設立から「KAITA EPITAPH 残照館」として再出発するまでのいきさつや平和への思いを熱く語った。

その窪島さんも齢を重ねて今年81歳。愛する信州に骨を埋めるつもりだ。近著には終活を意識した文も綴られている。

番組は、窪島誠一郎さんの生い立ちから現在までをたどり、窪島の数奇な人生を描くヒューマンドキュメント。

今年1月19日から長野県立美術館で初めて一般公開される「信濃デッサン館コレクション」の作品も織り込む。

番組には、窪島さんの他、無言館設立のきっかけとなった東京藝術大学名誉教授で文化勲章受章者の野見山暁治画伯や、窪島さんからの依頼で全国各地を同行撮影して写真集を出版した御代田町在住の報道写真家・山本宗補さんら、親交の深い人々が出演し、窪島さんの人となりや思いを立体的に伝える。

ナレーターは 渡部美智子(元NBS ニュースキャスター/旧姓岩本美智子)